

Architects' style

建築士 こおりやま

No.66 令和3年11月発行

令和3年福島県沖を震源とする地震に伴う 家屋被害認定調査業務

令和3年2月13日23時8分に、福島県沖を震源としてマグニチュード7.3 最大震度6強の地震が発生し、郡山市も震度5強の揺れに見舞われました。多大な建築物に被害をもたらしたこの地震発生後、郡山市と福島県建築士会郡山支部の間で「令和3年福島県沖を震源とする地震で被災した被害家屋調査業務についての委託契約」を締結しました。それにより郡山支部に所属する建築士の協力を得て、3月9日（火）より派遣、被害建物の調査を開始しました。当初は日に5名の派遣でしたが、調査依頼の増加に伴い4月は日に8名体制、4月30日より日に10名体制の協力となりました。調査が進むにつれて再判定の依頼も増えました。郡山支部より調査協力で派遣された建築士は2名ずつで郡山市役所の建築課、または開発建築指導課職員1名が配置されての3名体制の調査となり原則非木造建築物の調査を実施しました。8月以降は毎週火・木曜日の調査と調査日数、派遣建築士数も減少しました。

調査開始より9月末まで調査日数126日、派遣した建築士数 延べ948名 調査棟数延べ1161棟に及びました。

判定結果も一部損壊から全壊までとなりました。まだ寒い春先の時期から蒸し暑い梅雨時期を通り越し、真夏の炎天下での調査と7ヶ月間に及ぶ調査となりました。（10月になった現在も週一回1班での調査は続けております）

建築士の社会的使命を果たし社会貢献を十二分に務めることができたのではないかと思います。派遣協力された会員の皆様大変お疲れさまでした。

感謝状贈呈式

上記建物調査協力に伴い、令和3年8月24日に郡山市役所本庁舎2階 庁議室にて、郡山支部に対する感謝状の贈呈式が行われ、高橋支部長、幕田副支部長、阿部会計理事が出席しました。

新聞記事をご覧になった方も多いためと思いますが、福島建設工業新聞社様のご厚意により、新聞に掲載されなかった写真の提供を頂く事が出来た為、本誌にてご紹介させていただきます。

福島建設工業新聞社様、ありがとうございます。



第30回全国女性建築士連絡協議会開催

去る令和3年9月25日（土）、Zoomウェビナーによる「全国女性建築士連絡協議会」（通称：全建女）が福岡県を会場に開催され、全国から450名が参加した。

本来は昨年度開催予定であったが、コロナ禍の影響で1年延期し、福岡県建築士会メンバー以外は連合会会長以下全ての参加者がZoomによる参加となり、当支部からも5名が視聴参加した。

全建女では例年自然災害で甚大な被害の出た県をピックアップして「被災地報告」を行っており、本県も東日本大震災の報告を行ってきた。

震災から10年の節目を迎えた今年、僭越ながら筆者が被災地報告を担当する事となり、浜通りの現在の様子と各女性委員会の活動の様様を写真や動画を組み合わせて10分間の動画として、報告を行った。

今回は開催の様様を全て録画し、後日連合会のホームページに掲載して自由に視聴できるようにするとの発表もされていた。



さて、福岡に集まる事はできなかったが、後日福岡県建築士会より、「被災地報告のお礼」として全建女30周年を記念して作成された「被災木しおり」が届いた。（写真）

このしおりの材料である杉材は、基調講演を行った杉岡 世邦（すぎおか としくに）氏からご提供いただいたもので、紐に「久留米糺」が使用されている。

今回事前録画の動画とはいえ、全国発信の場に出演させて頂いた事で沢山の事を学ばせて頂いた。届いたしおりは、そんな沢山の人の「会を成功させたい」という想いと共に、大切に使用していきたい。

『居住福祉社会へ「老い」から住まいを考える』 早川和男 著

私がインスパイアされた本 — 齋藤 いち子 —

私の今の関心事は、これからの人生を、自分らしく楽しく暮らすことです。

これまでは、年齢は自覚していても、「老い」は他人ごととと思っていました。が、いつの間にか私の周りには高齢者の仲間が増えてきて、私もその一人。そろそろ、自分のためだけでなく、周りの人たちにとっても幸せな「老いる暮らし」を考えてみたいと思い、この本を読んでみました。

24年前に出版された同著者の『居住福祉』を読んだ方は多いと思いますが、この本も基本的な内容は同じです。建築の観点からではなく、「住居は福祉の基礎」という考え方から、住環境や住宅政策の問題を提起しています。老いて死ぬまで主体的に生き抜くために、日々の暮らしを営む住まいと地域コミュニティのあり方を、多様な視点から示しています。

一緒に、上野千鶴子著の『在宅ひとり死のススメ』を読むと、住み慣れた自宅で、自分らしく幸せな最期を迎えられるかもと元気が出ます。



今、思うこと

私がインスパイアされた本 — 堀井 勝典 —

この度、支部の広報委員会から「インスパイアされた本」という題目で、依頼を受けました。

20代、30代の頃はいろいろな作家の本を読みあさりしました。その後、深夜特急（沢木耕太郎氏）の紀行小説が目に留まりました。皆様もご承知かとは思いますが…。日本を出発し、香港、アジア、ヨーロッパ諸国を一人乗り合いバスで移動する個人旅行記です。コロナ禍の中、本棚を整理していて、この本が目に留まり昔を懐かしんで再読しました。

内容は、アジア編～ユーラシア編～ヨーロッパ編に構成されており、1970年代当時の交通事情、宿泊事情等がわかり、発展途上国の貧困さも作家の目を通して、我々に教示してくれています。この本を読んで、海外を知ることができ、海外に旅立つ勇気を頂いたと思っております。



そして、若い頃は「深夜特急」の作者のように一人旅をしたいと思っておりました。それは、実際は不可能でした。しかしながら、今70歳を過ぎても、香港、アジア、ヨーロッパにだってそれなりの仲間と一緒に旅行することは出来ると考えております。

話は変わりますが、当事務所の仲間と一緒に、「深夜特急」ではありませんが、平成13年から平成31年までの十数回、ヨーロッパ諸国の古い街並み探訪を実施してまいりました。中級クラスのホテル（朝食付き）に4泊し、一つの都市を徒歩がメインで行動し、遠い所には自分たちでチケット等を購入し、バス、電車、路面電車等に乗る、建物、絵画等を堪能しました。

印象に残っている都市は、`バルセロナ、`ローマ、`フィレンツェ、`プラハ、まだまだあります。

皆さんも、ヨーロッパの都市をツアーではなく自分の足で散策してみてください。価値観が全く変わるかと思います。

言葉の心配はいりません…気合いで全てOK！

おすすめはヨーロッパの冬（1月、2月）！

非常に寒いですが旅費が格安です！

`地球の歩き方、は必携！！

コロナが収束することを心から願っております。



「日本基督教団 郡山細沼教会礼拝堂」見学会

2002（平成14）年に国登録有形文化財に登録された「日本基督教団 郡山細沼教会礼拝堂」は、2月13日の福島県沖地震により被災し安全上敷地内は立ち入りが禁止。今回、蔭山寿一副支部長の計らいで、取り壊し直前の9月5日に講習・街づくり委員会主催による見学会が行われ、多くの会員が参加しました。教会関係者の方々からは、今回の解体に至るまでの経緯や建物の歴史などもお聞きすることができました。同礼拝堂は、1929（昭和4）年に建築され東北伝道の拠点として建てられたと伝えられています。構造は木造2階建（玄関上部はバトルメント付3階建塔屋）、224㎡の建物。1958（昭和33）年、イタリア・ミラノ市の工房でサンテ・ピツオール氏が制作したステンドグラスが正面講壇部分に取り



付けられており、グランドピアノの他にパイプオルガンが備えられ、緩やかな放物線状の天井が特徴。今回、廻縁の外れはありましたが天井も落ちる事なく無事でした。1956年2月には出火により礼拝堂屋根半分等を焼失、同年3月には復旧工事に着手されたとの事です。床下点検口を覗くと当時の物と思われる灰があり又、小屋裏には表面が炭化した柱・梁がそのまま使われており、今も建物を支えている事に驚きました。今回の地震では、外壁に鋼板で固定していたコンクリート造の煙突が外壁毎外れ傾いており、東日本大震災で修復工事を行った外壁部分の亀裂も大きくなり、内部の漆喰壁が崩れ落ち雨漏りするなど甚大な被害を受けていました。今回も復旧

に向け、教会関係者と信徒そして各関係者による懸命の模索がありました。断念、幾多の災害により修復修繕を繰り返しながら維持保全利活用されてきた建物も終わりを迎えます。

見学会には礼拝堂で結婚式を挙げた方も訪れていました。毎週日曜日の欄に『主日礼拝』と貼られたホワイトボードや『毎週金曜日の午後は教会会堂見学開放中』の掲示板もあり、長きにわたり信者の方々への心の拠所として、また、地域の方々へ愛され必要とされていた礼拝堂であった事がうかがわれます。感謝と寂しさとお疲れ様の気持ちでいっぱいになりました。終わりに、今回の見学会開催にご尽力いただきました方々に感謝申し上げます。



編集後記

はじめに、発行時期が遅れてしまった事と、寄稿頂いた皆様へのご連絡が直前になってしまった事をお詫び申し上げます。それでもお忙しい合間を縫って原稿を書いて頂き、誠にありがとうございました。

さて、マスクで顔周りだけが妙に暑い夏も過ぎ去り、めっきり寒くなりましたが、秋のキク科やイネ科の花粉でくしゃみ、鼻水が止まらない毎日。個人情報保護や著作権、肖像権の兼ね合いで写

真、画像の少ない号になりましたが、来年は笑顔の写真を沢山掲載できる事を願いつつ、集まった原稿とにらめっこしながら、掲載順などの最終調整をするのでした…。

福島県建築士会郡山支部

郡山市大町一丁目2番23号KIK' BビルW22(西2階)

TEL & FAX 935-2151

URL : <http://kenchikushi-koriyama.com/>

Mail : info@kenchikushi-koriyama.com